

若手職員座談会

若手職員4名によるクロストーク



職業安定局
高齢者雇用対策課
高齢者雇用企画係長
鶴井 雅樹
つるい まさき
令和3年入省

職業安定局
雇用開発企画課
企画係
中田 英里
なかだ えり
令和7年入省

職業安定局
雇用保険課
企画係
田中 俊輔
たなか しゅんすけ
令和5年入省

人材開発統括官
若年者・キャリア形成支援担当参事官室
企画係
正 菜々子
しょう ななこ
令和7年入省

1 厚生労働省を志望した動機を教えてください。

鶴井 大学院では心理学を勉強していました。大学院時代、臨床の現場で実際にカウンセリングをしていましたが、障害のある方の相談を受けた際にできることは、就労支援の事業所につなぐといった支援に留まりました。カウンセリングにおける個別支援の限界を感じたときに、行政官として携わることができれば、根本的な解決に繋がるのではないかと考え、厚生労働省を志望しました。

田中 私も大学院では心理学を学んでいました。大学生のときに、障害のある児童に接する機会がありました。そのこともたちが、学校を卒業し、今後どのような生活を送り、どのように働いていくのか考えたときに、障害などの困難を抱えた人を支える環境を作りたいと考え、厚生労働省を志望しました。

正 私は大学の授業で、生活に困難を抱えた方の話を聞く中で、特に印象的だったのが貧困の世代連鎖でした。「自分ではどうしようもできない状況によって不利益を被ること自体間違っているのではないか。」という憤りすら感じました。誰もが環境に左右されずに、自分の意思や努力でやり直せる社会の実現に貢献できるよう、厚生労働省を志望しました。



中田 大学時代に、ボランティアをとおして、困難を抱えた方と触れる機会が多くありました。また、大学院で情報と福祉を掛け合わせた研究を行う中で、福祉における行政の重要性を痛感しました。行政ならば、制度から困難を抱えた方を支えられると思い、厚生労働省を志望しました。

2 入省後に感じた職場の印象はどうか？ 入省して感じたギャップはありますか？

中田 親しみやすい人が多いことが印象的です。ちょっとした質問でも聞きやすい雰囲気があり、丁寧に教えてもらえる

のありがたいです。また、先輩が年次休暇の取得を積極的に促してくれたり、テレワークが推奨されていることも驚きでした。

正 入省前は堅そうなイメージがありましたが、仕事以外の話もできるのが意外でした。仕事の中にメリハリがあって、真剣に仕事に取り組む場面もあれば、雑談もできる環境に、良い意味でギャップを感じました。

鶴井 役所の人って堅いイメージがありますが、みなさん普通に笑うこともあります(笑)休みについても、積極的に取得しようという雰囲気があるので取りやすいです。

田中 正直、残業が全くないわけではないですが、休みについては事前に調整すれば、問題なく取得できます。仕事の内容については、志望動機で、障害について触れましたが、私は1年目のときに、障害者雇用対策課に配属され、まさに自分の興味関心のある分野に、入省してすぐ関わることができたのはありがたかったです。

鶴井 私は現在5年目で、毎年異動しているので5ポスト目になるのですが、厚生労働行政の幅広さを感じています。自分が志望時にやりたかったことだけでなく、いろいろな分野が繋がっており、視野を広げることが大事だと思います。

中田 大学時代、法律には全く関わっていなかったのですが、普段の業務では法律に接する機会が多く、日々その大切さを感じています。法律は制度の基盤であり、施策や人を動かすものなので、一つひとつの業務に取り組む中で、法律に慣れていきたいです。

正 入省前は若いうちはそれほど裁量がないのかなと考えていたのですが、上司に自分の意見を伝え、しっかり聞いてくれるので、風通しの良さを感じています。

3 人間科学職の職員間の関係はどうか？

正 縦のつながりがとても強い印象で、他の課室の方からも、すこく気にかけてもらっています。

中田 人間科学職の人に気軽に質問できるのありがたいです。また、同期が職業安定局や人材開発統括官にいて、業務上のつながりもあり、同期の所属する課の業務内容についても気軽に質問できるのありがたいです。



田中 たしかに、同じ人間科学職の人であれば、メールでは聞きづらい些細なことでも、気軽に質問できたりしますね。また、私は、鶴井さんに1年目のときにメンターをしてもらっていたのですが、先輩にも気軽に質問できるのが、とてもありがたいと考えています。

鶴井 人間科学職はそれほど人数が多いわけではないので、一人ひとりの仲が良く、一体感があります。皆さん優しいので、私自身もよく先輩方に話を伺ったりしながら業務を行っています。引き続き何でも頼ってくださいね。

4 印象に残っている仕事はありますか？

鶴井 年収の壁対策に携わっていた際、助成金の担当だったのですが、その助成金を活用している企業の方を招いて意見交換を首相官邸で開催したことが印象に残っています。総理が参加する会議に随行したのは、この仕事ならではの思い出です。また、3年目では、職業安定局内のとりまとめを行う総務課に所属していたのですが、局内の課室の意見を聞きつつ、局を代表して、他局や他省庁の主張と折り合いをつけながら調整するのは勉強になりましたね。

田中 1年間の地方研修がとてもよかったです。正直、1年目の頃は、自分の所属していた課以外の業務について、しっかりと理解できていませんでした。研修をとおして職業安定行政の全体像に触れることができ、業務に対する解像度が高まりました。

鶴井 地方研修から戻ってくるときに、地方の方から「現場の感覚を忘れないでほしい」と言われたのがいまでも印象に残っています。ただ、労働局の立場を考えつつ本省として、施策を進めなければいけない責任があるので、本省と地方を俯瞰した見方ができるようになったのはとても良かったと思います。

正 国会業務が率直にかっこいいなって思いました。国会議員の先生に説明に行ったり、答弁を書いたりしている係長の姿がすこくかっこいいです。

鶴井 国会業務では、どのように説明するのがいいのか、どのような答弁が適切なのか、短い時間で考えなければいけないのは大変ですが、自分の書いた答弁を、大臣が国会で発言しているのを見ると、とてもやりがいがあります。



5 休日や時間外の過ごし方はいかがですか？

正 休日はいろいろなところに出かけたり、美術館に通ったりしています。最近、ダンスサークルに通いはじめました。平日の仕事終わりにはジムで体を動かしたり、翌日のお弁当を作ったりしています。

中田 高校まで吹奏楽をやっていたのですが、最近、再開しました。6月には演奏会にも出演しました。また、通勤で読書をするのがマイブームになっています。ノートに感想をまとめています。

鶴井 平日の帰宅後は余裕があれば料理をしたり映画を見たりしています。土日はテニスをすることが多いです。

田中 平日は読書をしていることが多いです。また、土日は、人間科学職の先輩に誘われて山登りをすることもあります。地方研修で福岡に行った際は、毎週末、九州の観光地を巡っていました。



6 人間科学職の魅力(強み)とは、 どんなところにあると感じていますか？

鶴井 総合職なので、裁量が増えていくスピードが速く、かつ、職業安定局や人材開発統括官での業務が多くなるので、ジェネラリストかつスペシャリストとして活躍できるのは人間科学職ならではの強みだと思います。

田中 政策立案に携わる職種であり、かつ1年間の地方研修を経験することにより、省内でも「現場を理解できている」貴重な存在だと思います。また、人間科学職の先輩は面倒見がいい人が多く、困ったらすぐ相談できる環境があるのが、入省してよかった点です。

中田 興味分野に近い人が多いので、居心地もよく、みなさんフレンドリーに接してくれるので、ありがたいです。

7 最後にみなさんから就活生に向けた メッセージをお願いします。

正 1年前まで就活生だったので、不安な気持ちはすこくわかります。「何をしたいか」ももちろん大切ですが、「誰と働くか」もとても大切だと、入省以来、より強く感じています。そうした観点も大事にしながら就職活動を進めていただけたらいいのかなと思います。

中田 就職活動中に、迷うことはたくさんあると思いますが、就職活動を通じて、自分自身でも気づかなかった発見があり、成長できたと思います。少しでも興味があったら、話をきいてみるのはとても大切だと思います。

田中 就職活動中は、たくさんの企業や役所が選択肢になると思うので迷う気持ちがあると思います。人間科学職の方はいい人ばかりですし、私自身とても働きやすいと感じています。少しでも興味があったら選択肢の1つに含めていただいて説明会や官庁訪問に来てほしいと思います。

鶴井 視野を広く持つことが大切だと思います。必ずしも自分の興味関心のある施策だけに従事する仕事ではないので、いろいろな視点から多角的に物事をみることを経験してほしいです。厚生労働省のキャッチフレーズである「ひと・くらし・みらいのために」。これって本当にいろいろな視点、いろいろな施策が、国民のみなさまへの幸せに繋がっているんだなって端的に表した素晴らしい、深い言葉だと思います。「ひと」も大事だし、「くらし」も大事。それが国民の未来につながるどれも欠かせない要素です。ぜひ広い視野を持って志望してください。